

平成30年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493100182	事業の開始年月日	平成24年4月1日
		指定年月日	平成24年4月1日
法人名	株式会社 イル・クオーレ		
事業所名	グループホーム 「いなかの青空」		
所在地	(233-0003) 横浜市港南区港南 4-4-19		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成30年9月22日	評価結果 市町村受理日	平成31年1月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「認知症」は何もわからないのではなくところどころできないところを支援することで穏やかに生活ができることを職員がしっかり理解し、人生の先輩のお手伝いを少しさせて頂いているという気持ちで職員は仕事をしています。出来るだけご本人の気持ちに添って一日の活動を行っていますが、入居者様のADLが徐々に落ちていくことで戸外へなかなか出られなかったりすることもある。一か月に一度は外食やドライブを提供できるようにしている。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	平成30年11月9日	評価機関 評価決定日	平成31年1月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、横浜市営地下鉄ブルーライン港南中央駅から徒歩10分程の場所にあります。港南中央駅は横浜市港南区の公的関係機関が集中し、商業施設も多い地域ですが、事業所周辺は静かな環境の住宅地です。 <優れている点> 管理者のリーダーシップ、職員間の風通しの良い関係性、職員の自主性の尊重などで、安定した介護に努めています。職員のスキルアップや学ぶ意欲に応えるための環境を整え、内部研修のほか、外部研修参加を積極的に促しています。職員は、介護福祉士資格、拘縮・褥瘡(じょくそう)を防ぐ、高齢者のレクリエーション支援など、自らのスキルアップのみならず、利用者の生活の質の向上のために取り組んでいます。職員からの意見、提案で、管理者の判断が難しい場合は法人代表に伝えて検討しています。職員の要望から、夜勤をする職員の処遇改善につながっています。 <工夫点> 職員業務のスリム化を図るため、記録を手書きからタブレット端末入力に変更し、職員の情報共有にも役立てていこうとしています。利用者の誕生日はその日に祝っています。食事のリクエストを聞き、提供しています。毎月一回は、フードコートや回転ずしといった外食や、ドライブを兼ねた花見(バラ、イチョウの黄葉など)などの外出を企画し、楽しめるようにしています。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 「いなかの青空」
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念をフロア内に掲げ職員がイルも確認できるようにしている。	開設時に作った事業所理念を継承しているほか、今年度は「懇切丁寧」の年間目標を定めています。各フロアに掲示し、常に確認することで共有、実践につなげています。管理者は日々職員が意識できるよう働きかけています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩や町内会行事に常にはないが、参加し地域の方と交流をしている。	地域の一員として町内会に加入し、町内会主催のさくら祭りやもちつきなどに利用者と共に参加しています。今年度から近隣の保育園児との交流が始まっています。定期的な傾聴ボランティアのほか、事業所の納涼祭には地域の人の手伝いや協力を得ています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議等で報告話し合いを行い地域の方も参加できるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご家族様・地域の代表・区の代表に出席をしてもらい、運営報告活動報告について意見をいただいたり評価をもらっている。	年6回の会議では、事業所の運営状況や事故、苦情、行事などの報告後、感想を聞いたり、意見交換をしたりしています。出席者が地域の困りごとなどを話してくれることもあり、会議内容を深めながらサービス向上に活かそうとしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	ケアプラザ・区役所の担当の方とは密にはないが、連絡や協力ができるようにしている。	区の担当者とは、運営推進会議を通して、事業所運営の報告や実際について知ってもらっているほか、困難事例については相談できる体制を整えています。定期的な介護相談員2名の訪門があり、利用者の話を聞いています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	出入口ドアにチャイムを利用し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。夜間帯は一人勤務であるので施錠をしている。	今年度、フロアリーダー2名を委員とした身体拘束適正化委員会を設置しています。身体拘束についての研修では具体的事例を挙げて説明し、何が拘束に当たるかを学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。自己点検シートで全職員が自らのケアの振り返りを行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	入居者様に対して言葉遣い等職員同士お互い注意をしあえるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	内部研修を行い、理解を深めている。必要があれば成年後見人についての説明や案内をご家族に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時読み合わせを行い、疑問や質問に答え納得してもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情につながらないように普段からご家族様と連絡をとり、声を聴くようにしている。外部評価で出たご意見を参考に会議全に努めている。	面会時や電話連絡時、運営推進会議、外部評価の家族アンケート結果など、意見要望の把握に努めています。家族とは普段から密なコミュニケーションを図るようにしているほか、アンケート結果はミーティングで話し合い、改善に努めています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	普段から職員とは話しやすい関係を作りながら意見を聞いている。ご家族様とは来訪時必ず面会し近況を伝え関係作りに努めている。	毎月のフロアミーティングはフロア的全職員出席を基本とし、積極的な意見、提案を出し合っています。管理者の判断が難しい場合は法人代表に伝え、検討してもらっています。職員の要望から、夜勤の職員の処遇改善につながっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	希望休にはなるべく添うようにし健康管理を行っている。残業はお互いにカバーし合いながら、残業にならないよう指導している。記録の仕方を変えたことで職員の負担が減った。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員が希望する研修には法人が費用を出し積極的に出してもらっている。内部研修は全員の参加が限られており、ミーティングの時間に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	連絡会に加入し研修には職員に参加してもらっている。交換研修や情報交換を積極的に行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に本人の状態、意向などを聞きコミュニケーションをとれるようにしておく。入居後も安心して暮らせるように関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の思いをうかがい相談に乗りながら不安を解消できるよう努め関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ゆっくりとお話を伺いながら必要な支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常の食事の下ごしらえや、掃除裁縫など得意なことは積極的に行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	来訪して頂く機会を設けたり（行事等）体調の変化の情報を伝え、本人を共に支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	親戚、兄弟、友人は気軽に来ている。 馴染みの場所にはなかなか行くことができない。	家族、親戚、友人の面会を歓迎し、ゆっくり話せるように湯茶などでもてなしています。携帯電話での通話やメールも継続できるようにしています。入居前に利用していた理容室に訪問を依頼しています。自宅に戻り、家族とひと時を過ごすこともあります。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	仲の良い方や話が合う方なるべく近い席になるように配慮したり、日中に自由に座っている方とかかわりを持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても他の施設に入居している方にたまに面会をしたりしているが、逝去された方についてはあまり交流がない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	御本人の希望やご家族の意向等確認しプランを立てている。確認が困難な場合はご家族に伺いながら検討している。	職員は利用者への言葉かけを多くするよう努めています。一対一の関わりの時は特に意識をしています。言葉でのコミュニケーションが困難な時は、利用者の笑顔で判断することもあります。引き出した本音は経過記録に記載し、職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にご本人やご家族に確認をとっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	経過記録にて細かい変化や日中の様子等記録し現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的にモニタリングを行いご家族、ご本人の意向を確認している。その他状況に応じカンファレンスを行っている。	ケアプランは1年で作成し、利用者や家族の希望や状況に基づいて6ヶ月の目標を設定しています。医師の意見や職員の気づきもプランに反映しています。退院後など状況が大きく変化した場合は期間に関わらず見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の変化等経過を記録し、申し送りノートなどで職員同士共有するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	希望によって外出レクを企画したり地域のイベントなどにも参加している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	行きつけの理髪店が出張してくれたり地域の夏まつり等にも参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族・入居者様の希望を聞き、可能な限り入居前からのかかりつけ医を継続している。基本受診時はご家族に対応してもらっているが、行かれないときは職員が看護師で対応している。	協力医の他、以前からのかかりつけ医や希望の診療所へ受診しています。家族と協力して通院介助を行ったり、訪問診療を受けています。「通院結果記録」で情報を共有しています。緊急時はかかりつけ医や救急相談センターと連絡を取り、指示を受けています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職場内の看護師に入居者の状態の変化があったらすぐ伝え適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設看護師→管理者が退院時病院と連絡を取り合っ様子を聞いている。職員もお見舞いに行き今の状態の情報をみんなに伝えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約書にかいてあることを職員も把握しいざ重度化したり回復の見込みがないときはその方の状態に合わせ同意書を作成し、プランに添ってケアを行っている	入居時に「重度化および看取りにおける指針」で家族と本人の意向を確認しています。その後も段階的に方針を共有し対応しています。看取り経験のある職員もいます。終末期に向けた職員研修を行い、振り返りのカンファレンスも行う予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者の急変や応急処置について全員が周知できるよう定期的に話し合っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回防災訓練を行っている。 1回は消防の方にも参加し対応	消防署の立ち会いのもと、毎回様々なパターンで避難訓練をしています。ベランダの出入り口に「避難器具設置場所」と掲示し、避難経路がわかりやすくなっています。各居室に水2リットル、外の倉庫に缶詰などを保管しています。	災害備蓄品のリストが作成されています。個数や消費期限を明示し、定期的なチェック確認が期待されます。職員全員がどこに何があるか周知を図ることについても期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者の性格を把握し一人ひとりに合わせた対応を行い入居者様を尊重し接することを心掛けている。	職員同士が行う会話でも、利用者の尊厳を傷つけることがないように気をつけています。人前でのあからさまな介護や誘導はしないように申し送りをし、名前を呼ぶ時はどのようにするかなど話し合っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者の性格を把握し一人ひとりに合わせた対応を行い入居者様を尊重し接することを心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務を優先するのではなく、各入居者様のペースを大切に生活を送ってもらっている。希望があれば出来る限り対応するよう心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	以前の馴染みの店にはなかなか行かない方がほとんどなので整容については訪問カットを利用し好みの髪型にしてもらったり、その日の洋服を選んでもらったりしている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	週1回はフリーメニューの日を設け食べたいものの希望を取り入れたり、入居者の個々の能力に合わせお手伝いをしてもらっている。食べたいものをみんなで作って食べて喜んでもらっている。	本人の嚥下の具合により、小さなおにぎりや粥を作っています。調理や下膳を手伝う利用者もいます。誕生日はその日に祝い、利用者がリクエストした食事を提供しています。回転寿司、フードコートに出かけるなど外食も楽しんでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個人の咀嚼、嚥下状態を観察し、その状態に合った食事形態を工夫している。食事だけで栄養確保できない場合は栄養補助食品を利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご本人に出来るところまでやって頂き最終チェックを職員が行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個人の排泄のリズムを把握し必要な場合は声をかけを行い排泄の状態を確認している。便秘気味の利用者には排泄を促せるように工夫している。	ワンフロアに3ヶ所、車いす対応の広いトイレを設置しています。個別の排泄パターンを把握する努力を続けています。タブレット端末を利用し、職員間で支援方法を共有しています。誘導のタイミングを工夫することで、布パンツに戻ったケースもあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	軽い運動を取り入れ腸内運動を促す。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	本人の希望を尊重しつつ、日々の体調を考慮しつつ入浴を楽しんでもらっている。拒否の時は無理じいせず、日を改めるか時間をずらしたり声掛けを工夫している。	入浴は週に2回、実施しています。介護度が高くなってもリフトを活用し、湯船で温まってもらうようにしています。ヒートショック防止のため脱衣所の室温に気をつけています。同性介助の希望があれば、対応しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の生活状態を見て疲れが見えるようであれば早めの就寝の声かけをする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の効用等全員が把握はできていない。飲みにくい薬は粉砕をお願いしたり、落葉がないよう最後まで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	以前の生活状況を考慮し個々の得意分野を手伝ってもらう。例えば料理の下準備、掃除等動物が好きな利用者にはDVDなどを鑑賞して楽しんでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個々の体調により外出や外食等を行っている。	天候の良い時に近所を散歩したり、職員と一緒に缶コーヒーを買いに行く利用者もいます。事業所の車で、初詣の他、桜、バラ、ツツジ、フジ、イチョウなど季節ごとの花見外出を楽しんでいます。個別外出レクリエーションの計画も立て、実行するようにしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	日々の会話のなかで入居者が必要としているものがある時は個々に応じて、買い物と一緒に出ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族からはがきと一緒に読んだりご本人が希望された時は電話をかけたりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	おやつ時等入居者同士で食べながら会話を楽しまれています。テレビの前にソファを置いてみんなでくつろいで生活をしている。	フロアの壁には、利用者と職員が一緒に作った季節の花の貼り絵や、絵画、行事の時の写真、職員の作品などを飾っています。居間のテーブルや椅子の配置は、利用者が使いやすいように考えながら変更しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室には使いなれた家具や飾り等置いて落ち着いて過ごされるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	また個々の居室には使い慣れた家具や飾りなど置いて落ち着いて過ごせるようにしている。	各居室には、洗面台、クローゼット、エアコン、空気清浄機、換気扇を備えています。居室担当職員が整理整頓や衣替えを手伝っています。孫の成人式や結婚式の写真を飾ったり、机を置いて絵画制作を楽しむなど、その人らしい居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室かトイレなどに名前を書いたり入居者様にわかりやすいように工夫している。		

事業所名	グループホーム 「いなかの青空」
ユニット名	3F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念をフロア内に掲げ職員がイルも確認できるようにしている。 地域密着サービスを唱えているが、関係作りはあまりできていない。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩や町内会行事に常にはではないが、参加し地域の方と交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議等で報告話し合いを行い地域の方も参加できるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご家族様・地域の代表・区の代表に出席をしてもらい、運営報告活動報告について意見をいただいたり評価をしてもらっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	ケアプラザ・区役所の担当の方とは密にはではないが、連絡や協力が出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	基本的には身体拘束は行っていない。安全面に配慮しながら入居者の行動を制止しないよう自由に行動できるようにこころがけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	声かけや接し方については注意を払っている。勉強会にも参加しミーティングや日々の申し送り等でも話し合い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	内部研修行い、理解を深めている。必要があれば成年後見人についての説明や案内をご家族に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時読み合わせを行い、疑問や質問に答え納得してもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情につながらないように普段からご家族様と連絡をとり、声を聴くようにしている。外部評価で出たご意見を参考に会議全に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	普段から職員とは話しやすい関係を作りながら意見を聞いている。ご家族様とは来訪時必ず面会し近況を伝え関係作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	希望休にはなるべく添うようにし健康管理を行っている。残業はお互いにカバーし合いながら、残業にならないよう指導している。記録の仕方を変えたことで職員の負担が減った。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員が希望する研修には法人が費用を出し積極的に出てもらっている。内部研修は全員の参加が限られており、ミーティングの時間に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	連絡会に加入し研修には職員に参加してもらっている。交換研修や情報交換を積極的に行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	今までの生活歴、現在の思いや不安を受け止め安心して生活できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の思いをうかがい相談に乗りながら不安を解消できるよう努め関係作りを行っている。要求をすべて叶えることはできないこともあるが、それをうまく伝えられていない。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族の要望、本人の思いはなかなか一致しないが出来る支援から取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の思いや不安を一緒に実行・解消していけるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	来訪時今のご様子をなるべく話しているが、正直に話すことでかえってご家族を心配させてしまうと思ってしまう、施設側で解決してしまうことがある。家族との関係はうまく築けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	少数の方には行っているが、全員ではない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の一方的な心無い言動に対しお話をし、関係を理解できるよう努めている。食器拭きや、洗濯ものたたみ等出来ることをお願いしながら利用者同士がかかわりあい楽しく暮らせるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても他の施設に入居している方にたまに面会をしたりしているが、逝去された方についてはあまり交流がない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	突然の要求や希望については出来る限り対応はしているが（買い物・お風呂）できないときでも最初から決めつけるのではなくどうしたらよいかを検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時は本人、家族、もしくはケアマネジャー等から生活歴や趣味等は把握に努めている。またご家族とも話しやすい関係を築くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者ができそうなことがあれば前もって職員同士で話し合い個別で行っている。入居者の偏った情報だけで決めつけずその日一日の過ごし方や心身の状態を理解し総合的に把握しようと努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画期間は6か月を基本としその都度本人家族に対し、希望や意向を聞いている。日常のなかでご本人と話したり、ご家族とは面会時や電話等で話している。入居者が安心してゆっくり楽しく過ごせるようその都度職員間で話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ipadに入力し職員間で情報を共有し計画作成担当者を中心に良い方向へ進むように活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人やご家族のニーズにできる限り応えられるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会のお祭りに参加したり、施設の夏祭りにはボランティアさん協力にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人家族の意向を尊重しかかりつけ医を決めていただき情報を伝え支援している。施設協力医を希望された方も日々の健康管理をDr.と情報のやり取りを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職場内の看護師に入居者の状態の変化があったらすぐ伝え適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療機関、ご家族、管理者、看護職員、の間で情報交換を行い特に退院後については医師又は担当の看護師から詳細情報を聞きケアにあたっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約書に書いてあることを職員も把握しいざ重度化したり回復の見込みがないときはその方の状態に合わせ同意書を作成し、プランに添ってケアを行っている。本人、家族の意向を踏まえ医師・職員が連携をとっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者の急変や応急処置について全員が周知できるよう定期的に話し合っている。またAEDの使用方法的の研修も受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回防災訓練を行っている。 1回は消防の方にも参加してもらい対応。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	本人の気持ちを優先に考え選択しやすい言葉かけをするよう心掛けている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活の過ごし方、体のリズム、タイミング、馴染みのやり方に沿って本人が決める場面を作っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日常生活の場面で本人の体調に配慮しながら声やサインを捉え支援するようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	こだわりがなければ職員の感性で済ませている。同じスタイルが多く気配りが必要な方がほとんど。髪の毛が伸びたとき訴える方もいるのその時はカットを依頼する。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	見守り、支援を受けながらお手伝いが日々の生活の楽しみになってもらえるよう声掛けをしている。時として忙しさの中で職員の都合になってしまうこともある。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分量の把握をすること、嫌いな食べ物の押しつけはやめる。食べるスピードも考慮してむせ込なく、一人ひとりに合った支援をするよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔内の健康は全身につながっていくので、丁寧にケアを行っている。食事前の口腔ケア運動にも力を入れている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	パターンをつかむことやご本人のプライドを傷つけないように心掛けている。特に失敗したときは周りの方に気づかれないよう、さりげなく更衣を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	薬に頼らず牛乳等の食材がもっと提供できたらと思う。運動・散歩にもっと力を入れられたら自然排便につながるのではと思いつつなかなか習慣づけられないのが現状。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	理想はご本人の希望を確認して入っていただきたいが、朝や夕方は難しい。同性対応の考慮も必要なので時々無理な時がある。1対1になれるチャンスであり会話を楽しむ時間である。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の体調に合わせその日の行事などへの参加を勧めたり、お疲れの時は早めの就寝を進めている。その方の就寝のリズムを職員で把握している。他の職員の介助の様子を観察し職員同士気づき合うことも行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の効用等全員が把握はできていない。飲みにくい薬は粉砕をお願いしたり、落薬がないよう最後まで確認している。薬の副作用や体の変化について細かい気づきができるよう努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	職員側だけのプログラムにならないように努める。しかし一方的な役割を押し付けてしまっていることもある。本来は希望をうかがっての参加がよいが現状は厳しい。一日一日感動を覚えられよう様々なツールを用いて心を通わせている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	全員での外出は難しい難しくなっているが職員全員が協力している。個別の外出も状況が許す限り対応しているが、少ない気がする。外出意欲がわく様な声掛けを心掛けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご自分で管理できる方が少ないが、出来る方はなるべく管理をして頂いたり、買い物に出かけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯を使える入居者様は自分で家族に連絡をしており、希望があれば気軽に取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	みんなで過ごすフロアは明るく目でも楽しめるよう装飾を工夫し、季節が感じられるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室には使いなれた家具や飾り等置いて落ち着いて過ごされるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	また個々の居室には使い慣れた家具や飾りなど置いて落ち着いて過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室かトイレなどに名前を書いたり入居者様にわかりやすいように工夫している。		

平成30年度

目標達成計画

グループホーム

事業所名 いそかの青空

作成日: 平成31年 1月13日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成 に 要する期
1	Ⅰ Ⅱ	御家族が運営について 意見を言っていない。運営推進会議 への不参加	・お父さんや家族が運営について 意見をもらい、意見が言える 場に参加できる	・アンケートの活用 ・定期的な報告(お知らせや手紙、 電話の活用)	6ヶ月
2	Ⅰ Ⅲ	ケアに対して自信をもてない職員が 多い。	・自分のケアに対して、利用者への 思いが伝わるように頑張ることを 自信をもってケアが行える。	・他の職員に言われたから、おかげで いらいはーと感じる職員の話を よく聞き、何故おかしなことを確認しな いから、おかげでいらいはーを伝える	2ヶ月
3	Ⅲ Ⅱ	記録が丁寧等、書き方が 悪い。	・全員がきちんと記録ができる	・事例など書いてもらいながら、研修 を行う。	3ヶ月
4	Ⅲ Ⅳ 26	ケアの質の向上ができていない時期が ある。	・17のケアに対し、職員が目的を きちんとしきり、同じ介護ができる	・カンファレンスの徹底。 目標がずれている人の指導。	3ヶ月
5					ヶ月